

## 平成 30 年度 青少年委員会公開シンポジウム報告

### ■はじめに

谷川： 本日は Topic きらめき創造館青少年委員会公開シンポジウムにご来場いただき、誠にありがとうございます。

本日進行を勤めさせていただきます、NPO 法人ゲキトモエンターテイメントの谷川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今日は「大人が知りたい中高生の求めるもの ～若者が行列をつくる公共施設」というテーマで、Topic 青少年委員会の皆さんに若者目線での意見や考えをいろいろ聞いていきたいと思います。青少年委員会の皆さん、よろしくお願いいたします。

では、まず今日のパネリストである青少年委員会について、まだご存知ない方もいらっしゃると思いますので、どういう活動で、今ここに至るのか説明してから本題に入っていきたいと思います。

この Topic 青少年委員会は、中学生・高校生・大学生・30 歳未満の社会人で構成された委員会で、平成 28 年に結成されました。

この青少年委員会が結成された経緯としましては、以前この場所に公会堂という建物が建っていたのですが、その公会堂が閉館になりまして、その跡地をどうするか市で検討することになりました。結果、「若者の育成拠点」をつくらうということになり、この Topic きらめき創造館が建つことが決まりました。

そのために「どうすればよいか若者の意見と聞こう」ということで青少年委員会ができました。



現在、平成 28 年、29 年、30 年と、間もなく 3 年目を終えようとしている青

少年委員会です。

こちらが今から 3 年前、はじめての青少年委員会の様子です。この当時、工事



も入っておらず、建物もまだ手付かずの状態、みんな模型を見ながら、どういった施設にしていけばイメージを膨らませながら話をしていました。

他にも Topic という愛称を決めたり、どういふものがあれば青少年に役立つかというような話し合いが行われてきました。

当初、市の原案では、日曜日は午後 5 時で閉館だったのですが、この青少年委員会で「日曜日も使いたい」という意見が多くあり、また第 4 火曜日が毎月休館日という設定になっていたのですが、中間考査や期末考査が月末第 4 週にかかることが多いので、「それは困る」ということで休館日は年末年始と祝祭日を除く、毎日朝 9 時から晩 9 時開館時間となりました。

使用料金についても話し合わせ、「何歳まで無料で使えるか？」という話し合いがありました。青少年から出た意見としては、「社会人であれば収入も得ることもできるし、いつまでも無料で使いたくない」「僕たちもそんな大人になりたいし、そんな大人になれるようがんばろうと思うから、大学卒業の 22 歳という年に、無料だった青少年から一般団体になる」ということで、22 歳未満の市内青少年団体は無料、それ以上の一般団体は無料ということになりました。

1 年目は施設のルールづくり、活用方法を、主に話し合ってきました。

2 年目に入ると、この建物が建ってきました、

その夏には内覧会が行われました。この頃はオープンを間近に控えて、この施設をどうやってPRしていくか、どうすれば人が集まるか話し合っていました。

あと、施設の備品で何があれば青少年に役立つか、活気につながるかというような話し合いも行われてきました。

平成29年9月にこの館がオープンし、オープニングイベントを行いました。

当初は、人が来なくて、ガラガラになるのではないかと心配されたTopicですが、口コミで利用者がどんどん増え、オープン3ヵ月後には一日平均100人の学生が利用するよう



になり、自習室も満席となる日ができました。今では試験前になると、開館前には行列ができ、早い

子は朝7時30分から館の前に並んでいるという状態になっています。

また、試験期間以外でも利用者がどんどん増えてきており、部活やサークル、交流や休憩の場としても常に若者がいる施設になりました。青少年委員会も立ち上げから三年が経過しましたが、利用者の増加により、利用者のマナーが議題としてあげられることが多かった一年だったなと感じています。

そして、今後の青少年委員会の更なる発展と後継者づくりの意味も含め、小学生を中心とした子ども青少年委員会を立ち上げ、小学生と中高生が一緒になって、子どもにとって、若者にとって理想の施設とは何かという話し合いの場をつくることができました。

青少年委員会はこういった形で活動を行ってきましたが、ここからは実際に青少年委員会で活動を行ったパネリストの皆さんに話を聞いていきたいと思います。

## ■パネラーの自己紹介と青少年委員会に参加したきっかけは？

**東條玲**：東條玲央（とうじょう れお）と申します。普段はロビースタッフとして活動する傍ら、大阪教育大学の大学院に通っております。青少年委員会に参加した理由ですが、僕はもともとボランティア活動に興味があったため、トピックフレンドとしてボランティア活動をはじめたところ、谷川さんから青少年委員会への参加を誘われたことがきっかけです。

**山崎**：平成28年度に参加していた山崎春奈（やまざき はるな）です。社会人一年目で、富田林市役所の職員として働いております。青少年委員会に参加したきっかけは、当時、通っていた大阪大谷大学の職員から活動について教えてもらい、誘われたのがきっかけです。



**神長**：相愛大学四回生の神長佑一（かみなが ゆういち）です。青少年委員会は一年目と二年目に参加させて頂きました。きっかけは谷川さんから誘われたためです。

**槇野**：平成29・30年度に参加した清教学園高校2年生の槇野天音（まきの あまね）です。委員会に参加した理由は、トピックのオープニングイベントの際にボランティア募集のチラシを見て、ボランティアとして活動するうちに、いろんな人から委員会に誘っていただいたからです。

**宮元**：阪南大学附属高校2年の宮元未来（みやもと みらい）です。平成28・29年度に

参加しました。もともとボランティア活動に興味があり、地元の保育園や介護施設でボランティアを行っていたのですが、富田林市のために何かできないかと考えていた時に、たまたま広報で青少年委員会メンバー募集の記事を見たことがきっかけです。

**東條晴**：富田林市立第二中学校の東條晴斗(とうじょう はると)です。平成30年度から参加しています。青少年委員会に参加したきっかけですが、兄が参加していたということもあったのですが、谷川さんから誘われたことが理由です。

**中田**：平成30年度に参加している富田林中学2年の中田衣舞(なかた いぶ)です。きっかけは、友達とトピックで勉強しようと集まった際に委員会に誘われたためです。



**■(初年度から参加していた方々への質問として)トピック開館前(設立前)、どういった思いを抱きながら、青少年委員会に参加していたか?**

**山崎**：私は当時通学していた大学が富田林市にあったが、和泉市民であったため、若者のためのきれいな施設が立つのだなというぐらいの認識で参加していました

**宮元**：初めて参加したのが中学2年生で、ちょうど翌年が高校受験の年でした。普段は家で勉強するのが苦手で、トピックに自習室ができるということを知って嬉しかったことを覚えています。

**神長**：当時は大学2年生でしたが、演劇活動を続けていて、自分が演劇をする場所がなくて困っていたので、トピックができればここで演劇活動ができるのではないかと期待しながら参加していました。

**■“トピック”という愛称は、どうやって決めた?**

**宮元**：各自案を書いて、それを机の上にバナーって並べて、いいと思う案をとっていく形だったと記憶しています

**神長**：各自が紙に書いて、それぞれの案でいいなと思うものを順番にとっていって、最後に残ったのがトピックだったと思う。トピックという案を出した人によれば、話題に溢れた施設になってほしいという期待をこめた愛称で、それにみんな心を打たれて、“トピック”という愛称に決まったんだと覚えています。

**■委員会設立当時、子ども・若者にとって理想の施設は何かという話し合いをしたが、各自、それぞれの意見は覚えている?**

**神長**：青少年の定義、たとえば、20歳を超えた学生や20歳未満の社会人、施設を利用する際の利用料金について話し合ったことを覚えています。

**宮元**：活気があり、また、学生がボランティアをできるとか、明るい施設にしたいという意見が多かったと記憶しています。

**山崎**：中高生はもとより、小さい子供たちも利用でき、また、様々なイベントができる施設がいいという意見があったことを覚えています。

谷川：若者のための施設ということから、中高生がメインの施設として委員会の皆が考えるのかと思っていましたが、小さい子供たちや地域の方々のためにできることなど、幅広く意見を出していたことが強く印象に残っていますね。

### ■2期目の青少年委員会から、生徒会長や委員長のような幹部役員のポジションをつくった。そして初の委員長が宮元さんだったが、立候補した動機は何か？

宮元：当時、私が一番年下で、知り合いもいなくて不安でしたが、そのまま終わるのではなく、どうしたら自分がいろんな人とコミュニケーションをとっていけるのか、どうしたら自分を周囲に覚えてもらえるのかと考えた結果、委員長になれば皆と話す機会も増えるし、最年少やし、私のことを覚えてくれるだろうということが動機でした。



### ■オープン当時、青少年委員会やトピックで印象に残っていることは？

神長：僕は当時大学生で、委員会のメンバーは年下の中高生が多かったですが、みんな熱意をもって自分の考えを出していることが印象に残っています。

槇野：最初は知り合いが誰もおらず、はじめて話したのが宮元未来さんでした。そういう新しい出会いがあるいい場所だなと感動しました。

東條玲：近隣に小学校・中学校・高校があるので、小学生や中学生、高校生、様々な年代の子供たちと接する機会が多いです。受験相談や

勉強、恋愛の相談も受けますし、学校や塾、親以外の大人と関わる機会があることがいいなと思います。

### ■青少年委員会も3年目を迎え、3年目の副委員長に槇野さんが立候補しましたが、その動機は？

槇野：宮元未来さんが委員長をしていましたが、間近でその活動を見ていて、自分も輝いた存在になりたいという想いと、人見知りがあるので、それを克服できるのではないかなと思って立候補しました。



### ■(2年目以降に青少年委員会に参加された方)トピックを知ったきっかけ、また、実際にトピックを利用してどう感じた？

中田：学校から駅までの間に新しい施設が建っているなと思っていましたが、友達を誘って来館してみました。初めての印象は幅広い年代の子どもたちがいるなあというものでした。また、実際に利用してみて、自分の都合や用途にあわせて様々な形で利用できるいい施設で、私の住んでいる地域でも同じような施設があったらいいなと思っています。

谷川：中田さんは他市から富田林市に通っておられるんですね。自宅の近くには同様の施設はないですか？

中田：図書館はありますが、長机でぎゅうぎゅう詰めなので、あまり利用したいという気になりません。

東條晴：きっかけは、友達から誘われたから。

実際に利用してみるとすごくいい環境だなと感じた。

東條玲： 新設されたのは知っていたが、この年の人間が入るのは勇気がいるなど思っていたが、大学の友人がトピックフレンドをしていて（興柁）、その友人と一緒にきたのがきっかけです。



興柁： たまたま通りがかったときにトピックを知って、館内にボランティア募集のチラシが

あったので、そのままボランティアになりました。

### ■（初年度から参加していた方へ）初年度に理想の施設とはというテーマで話し合ったが、それが実現されたと感じている部分は？

神長： 設備や貸出備品が充実しており、活動しやすいと感じました。

宮元： ボランティアスタッフが多くて、勉強を教えてくれる部分です。自宅だとそのまま放ってしまいがちですが、トピックでは教えてもらえるので、トピックに行こうって気になる。人とつながれるのが嬉しい。

山崎： “活気ある施設”というテーマは実現されていると思います。オープン後、行列ができていたり、満員だったり、若者の集まる場として活気ある施設であると実感していますし、自分たちの意見が形になっているなど実感しました。

谷川： 今、皆さんが話してくれたとおり、ロビーには黄色のベストを着たスタッフがいて、勉強をみたり、いっしょにカードゲームをして遊んだりしています。常にいろんな人が集まって交流しているなという印象です。

また、中高生と一緒に勉強を教えあい、夏には富田林の夏野菜を使ったサラダバーを、冬には地域の野菜を使ったお鍋の交流会を行いました。

加えて、今年は“置くとパスするオクトパス”というタコを受付において、タコの頭を撫でたら合格するよという受験生応援キャンペーンなども行いました。

それから、子ども食堂もここで実施しています。子どもたちから中高生まで、地域の方と一緒になってみんなで料理をしようという趣旨で、子どもたちにも積極的に包丁を持たせたりしています。



他にも先日の雛巡りの日にはキッズフードコーナーとして、小学生から中高生の青少年委員会のメンバーが中心となって、フランクフルトやラーメン、カレーうどんの販売をしました。

### ■この施設は中高生をはじめ、毎日多くの学生が利用しているが、なぜトピックにこれだけ若者が集まるのか、学校や自宅にはなく、トピックにある魅力とは何か？

中田： 学校の帰りにトピックの窓から中をのぞくと、いつも学生であふれています、私が思うトピックの魅力というのは、学校や家は義務的な部分がありますが、トピックは自分の気分にあわせて気軽に行ける、そしてそれを受け入れてくれるという施設という点です。

学校や家にある義務がトピックにはなくて、学校や家がない自由さがトピックにはある点がトピックの魅力だと思います。

谷川： どういうときにトピックに行きたいと思いますか？

中田： 友達と遊びたい、話したいというときだったり、はたまた家にいたくないなと思うとき。

谷川： 家にいたくないなと思うときもある？

中田： 家に居づらい雰囲気があるときもあって、そんなときにトピックに来ると気分がリフレッシュできる



東條晴： 集中しやすい環境、家だと集中を妨げるものが多いため。

谷川： トピックにも集中を妨げるものはあると思うけど、どうですか？

東條晴： 3階の自習室は静かで、みんな集中して勉強しているので、同じように集中して勉強できます。

宮元： 意見が重複するが、周囲が勉強しているので、それに感化されて自分も勉強しようという気になる。家で勉強すると、疲れた時のリフレッシュが難しいが、トピックであれば、たとえば交流スペースで友達と話したりするなどのリフレッシュができ、メリハリがつけられる

榎野： 勉強目的の人も多いが、私はいろんな人と交流できる機会が多いので来ています。

自分から話さなくても悩みを聞き出してくれたりしてくれるし、小学生から大人まで様々な年代の人たちからいろんな人のいいところを吸収できます。

谷川： 以前、榎野さんは大人が嫌いだと言っていたことがあったと思うけど、どうですか？

榎野： その当時は、大人が大人というだけで偉そうにしていると思っていたが、実際には一緒に考えてくれたり、自分のために時間をさいたりしてくれる大人がいるということを知って考えが変わってきました。

神長： 同じ目的の人がいるということが、自分の力になります。学校や家ではない特別な場所だと思うし、トピックに行けば会える人、トピックだからこそ出せる自分があって、だからこそ居心地がいいと感じます。

谷川： 学校での自分、家での自分、トピックでの自分は違う？

神長： トピックの雰囲気だからこそ自分もあるし、様々な年代の人たちと話しができるのはトピックならではの魅力だと思います。

山崎： トピックは自由な空間だと思います。勉強目的で利用する人も多いですけど、勉強をするだけでも、  
自習室でもってやる、教えあいながらやる、スタッフに教わりながら



勉強 するなどなど、様々な方法があります。それに、勉強以外でもいろんな利用ができるし、利用する人が自由に伸び伸びと活動できるのが、トピックのいい部分だと感じています。

東條玲： トピックはバランスがいいと思います。他の施設では、たとえば自習施設ならそれ以外のスペース（空間）はないということが多いけど、トピックは1階、3階とで雰囲気は全く違うから、集中して勉強もできるし、楽しみながら勉強することもできる、そういったバランスがいいと思っています。

### ■これから青少年が大人となり、社会に出ていきますが、社会で生きていく上で必要なことは？



東條晴： 会話能力が必要だと思う。人の前で話すといった機会がもっと増えればよいのではないかなと思います。

いかなと思います。

宮元： 自分の思いを直接人に伝えられるかがポイントだと思います。SNSの普及で、簡単に自分の思いを人に伝えられる時代だけど、その反面、直接は言いづらい。だからこそトピックのように様々な年代と触れ合える、交流できる場が増えるといいなと思います。

谷川： 先ほど、自宅での自分とトピックでの自分は違うということを書いてたけど、SNSで発信している自分と、ここで実際に人前で話している自分も違うとを感じる？

宮元： SNSや家族、友達にも言えないことが、トピックの人となら言えることもあるし、

大切な存在だと思います。

中田： コミュニケーション能力とそれを備えた上で、語彙力が必要だと思う。私は言葉を文字にすることは得意だけど、面と向かって話すことが苦手です。だから自分の考えていることをうまく伝えられなかったり、あるいは真意でないことが伝わってしまったりしてしまうので、これから社会に出て人の信用を築いていく上で必要なのは、コミュニケーション能力と語彙力だと思います。



谷川： 中田さんが考える語彙力とは？

中田： たとえば花をみたときに、「綺麗」といった単語だけでなく、より表現できるような力、人にわかりやすく伝えられるような言葉を選択できたらいいと思います。

槇野： 自分が当たりまえだと思っていたことが、当たり前でないと思うことだと思います。私はそれを多様性だと考えています。他人の生き方も自分の生き方に取り入れて実践してみても多様性につながっていき、そうやって取り入れてこそ新しいことに気づくことがあると思います。私はもともと人と話すことが苦手だったんですけど、トピックで交流することで本当は、自分は人と会話することが好きなんだということに気づけました。学校や家ではルールにのっとって行動するよう言われますが、もっと多様性を認めてほしい、寛容になってほしいと思います。

谷川： 槇野さんの考える“多様性”とは一言

でいうと何ですか？

**槇野**： みんな違ってみんないい。

**神長**： 僕は春から社会人ですが、振り返って思うことは今、熱中できることに熱中してほしいなと思います。僕の経験では、学生の限られた時間のうちにしかできないことも多かったし、自分がうちこんだ活動で楽しいなと感じた記憶やそのときに会った人たちなど、それが将来的に自分の財産になってくると思います。頑張ったからこそこれから頑張っていける、幸せだったからこそこれから幸せになっていける、そういうふうになれるから、今だからこそ熱中できることに時間を使ってほしいです。

**谷川**： 神長さんが特に思い出に残っていることは？

**神長**： 僕の集大成は、自身がリーダーとなってメンバーを束ねて演劇の公演をしたことですが、演劇を始めたばかりのころは楽しいだけでよかったけど、だんだんと課題が出来てきて、大変なこともありましたが、続けていくことで様々なつながりができて、そこでもらったアドバイスの今の生活にいきていると思うときもあります。時間のある学生のうちに、貴重な体験をしていくことが社会に出た時に大きな力になると考えています。

**東條玲**： 今この日本なら、だいたい生きていけるけど、生きているという実感をもって生きていくのとは違うと思う。実感をもって生きていくためには、自分から行動を起こすことだと思っている。そのために僕が必要だと考えるのは、課題発見能力です。たとえば、日常で誰も何も疑問に思わないことでも、ある人からみれば

そこに課題がある。たとえば40人で集団で授業で受けること、一律での講



義にどういった意味があるのか、そういった課題を見つける。そしてその課題に対する解決策を考える、それが心から生きていると実感できるのかなと思っています。そういった課題発見能力を身に着けるために学生の皆さんにしてほしいことは、日常の不満を表面に出すこと。自分が思っているおかしいと思うことを素直に話し合っ、それを解決するためにどうすればいいか考える、そういうことで本当の力を出せるんじゃないかなと思います。それができたら、日常の何気ないことに疑問を抱くことができるようになる、そういったことができればクリエイティブな人材になれると思います。

**山崎**： 人のいいところを見つける力が必須だと考えます。社会に出ると様々な人と関わりますが、人の嫌な部分ばかりを見るのではなく、人のいいところを見つけていき、人を受け入れて、うまく付き合う、いい人間関係を築いていく力が必要だと思います。

### ■自分たちより下の世代、次の世代に何を学んでほしい？

**中田**： 私は小学校では努力しないで優秀な成績を保っていたし、先生に何か言われても簡単に論破できていたけど、中学校では様々な人がいることを知って、みんなそれぞれ個性があることを知った。それを理解したときに、自分の立場がわからなくなってしまうときがあったから、次世代の人たちには周囲に惑わされず、自分の思う自由な生き方をしていってほしいと思う。



**東條晴**：僕が思うのは夢をもってほしいということ。僕には夢がないけど、夢があればそれを

知ろうと努力するから、夢をもってたくさんを知ってほしい。

**宮元**：自分ができないこと、不安なことを放っておくのではなく、それを克服するため、どれだけ行動に移せるかが重要だと思います。私は克服しないまま放っておいて後悔したことが何度もあるため、思い立ったときにすぐ行動に移す力があればいいと思います。

**榎野**：影響力と自分を振り返ることだと思います。私は小学校6年生から毎日日記を書いています。はじめは遺書の代わりとして日記を書いていましたが、中学生のとき、テレビに影響され、「はじめは今日の自分の行い、次にそれに対する改善点、最後に明日の自分へのアドバイス」として日記を書くようになりました。私は小学校のころから自分はどんな人間なんだろうと思っていて、他人には自分を飾って見せている部分がありますけど、日記を書いていることで本当の自分がわかってきたと思います。だからこそ、早めに次の世代の子たちにも本当の自分を見つけてほしいです。そしていいことも悪いことも人に影響されていったらいいと思います。

**東條玲**：僕が一番大切だと考えているのは、自己紹介を絶対に考えておいてねということ。僕は自己紹介ができる人は自分自身のことをわかっている人だと考えている。自分は他人とここが違う、だから「自己」になる、そして自分のことも他人のことも完璧に知って初め

て自己紹介というのは完璧にできるもの。だからまずは自己内会議、どんなことが好きか、興味がある、あるいは何のために生きているのか、自分自身に問うのが重要。そうやってても絶対に答えは出てこないし、答えがでたとしても、それが正解なのかを確かめるために人とコミュニケーションをとる。深くコミュニケーションをとって、生きているという実感をもって生活していく。そういった経験を小学生や中高生にしてほしい。

**山崎**：いろんなことに挑戦して行ってほしい。新しいことを始めるのは勇気がいるけど、学生のうちならいくら失敗してもリカバリーがきくと思う。私自身、様々なボランティア活動をしてきて、自分の考え、視野が広がったと実感する。次の人たちにも若いうちにどんどん挑戦し、可能性を増やしていいって、そして社会人になったときに活かして行ってほしいなと思います。

**神長**：人と人とのつながりを大切にしていってほしいなと思う。「一期一会」という言葉があるが、人との出会いの中で、今しかない出会いや長く続く出会いもあるかもしれないが、関わった人たちは全部自分の力になると思っている。特に今の学生のうちだからこそ感じられることもあるだろうし、そのときそのときにつながりを大切に自分の生きる力にしていってほしい。

## ■大人に伝えたいこと、理解してほしいことは？

**東條玲**：否定をしないこと。子どもからしたら大人はとて大きな存在であって、どれほどの影響を与えるかわからない。否定する前に子どものいいことをいくつもあげてほしい。理解してもらわないといけないことも多々あるけ

れど、それを1回で聞いてもらえるように子どものいい部分を見られるようになってほしい。

**山崎**：子どもを信じてあげてほしい。今の子どもたちは塾や習い事などやる



ことが多くて大変だと感じる。親の期待はわかるが、子どもからしたらプレッシャーになるのではないかと  
思う。もっと自由に子どもが自分で何をするか  
選べる時間を与えてあげたら、のびのびと育っ  
ていけるんじゃないかなと思います。

**神長**：子どもたちの話を聞いてあげてほしい。  
私は春から幼稚園で働くんですが、園児たちも  
自分たちの想いを持っているし、それを無視し  
て進めていくと子どもたちも人生を楽しめな  
いんじゃないかと思う。子どもたちの想いを大  
人の勝手な考えで決めつけしないで、子どもた  
ちの話を聞きながら受け止めていってあげてほ  
しい。

**宮元**：子どもたちの自主性を尊重してほしい。  
親から言われて行動するより自分で考えて行  
動するほうがモチベーションも違うし、達成感  
もある。

どうしても人から言われないと行動できな  
い人もいることはわかるが、そういう子ども  
たちを自主的に動かせる環境づくりが大切だ  
と思います。

**槇野**：感情をぶつけないでほしい。時と場合  
によって怒られるときと怒られないときがあ  
るため、大人の気分・感情で怒ったり怒らな  
かったりしていると感じる。経験がない分、敏感

に感じ取りやすいのが子どもたちだと思う。お  
前のためを思って怒っているんだと大人は言  
うけれど、怒鳴られれば嫌な気持ちになるし、  
その人のことを嫌いになる。

大人のほうが小さな世界に閉じこもっている  
ように感じる。大人自身が様々な人と 出会っ  
て感情をコントロールできるようにしてほしい

**東條晴**：受験で忙しくて、リラックスしたい  
ときもあるので、そんなときはそっとしておい  
てほしい。あと、学校のこととか聞いてほしい。

**中田**：大人に相談したときに、勝手に答えを  
決めつけしないでほしい。

小学校にいたカウンセラーの人は、相談された  
ときに肯定も否定もしないし、親に話すより話  
しやすかった。

助言を求めて相  
談しているわけ  
ではないので、  
わかったような  
態度で答えを言  
わないでほしい。



## ■若者が考える理想の社会とは？

**槇野**：素直になる人が多い社会。学校では冷  
めている人がどうしてもいる。みんなが素直に  
なれば、もっと楽しいし、楽しむのがかっこい  
いと思える社会になればいい。

**宮元**：バランスをとれる社会になってほしい。  
たとえばクラスでは全員を引っ張っていく人  
と、それに付いていく人がいるけど、どちらも  
大事だし、どちらかだけでは成り立たない。互  
いが互いのことを思いやれる世界になればい  
いと思う。

神長：少し漠然としているが、みんなが笑顔で生活できる社会が理想の社会と考えます。たとえば赤ちゃんやお年寄りまで、みんなが笑える世界。自分自身の人生が楽しいと思える社会が理想だと思います。

東條玲：真に受け入れる力のある社会。具体的には人種問題や差別問題、そういったものを丸ごと理解したうえで受け入れる社会。頑張っているときや苦しいときに支えてくれる社会が理想的だと考える。

山崎：人と人とのつながりの上で助け合える社会。今はSNSの普及で簡単に人とつながれるが、対面的なつながりではなく、薄いつながりだと思う。つらいときや苦しいとき、そばに支えてくれる人がいるというだけで安心するし、心が軽くなる。

東條晴：みんなが助け合える社会。利害関係とかじゃなく、気持ちで行動できる社会。

中田：努力した人が報われる社会。私が中学受験をした際、学費が高すぎて受験を諦めた学校に、寄付金制度を利用して入学した人がいた。お金が絡まない、純粋な努力でのみ報われる社会が理想。

興梠：つながりが多い社会。子どもたちを見ていて、生きづらい子はつながりが希薄な子だと実感している。いろんな関係をつくって行って、その関係で助けてもらえる、人とコラボレーションできる社会が楽しい。そういった社会で会っ



たほしい。

寺本：外見だけで人を判断しない世界。また、みんなが自分の意見をもって、素直に話し合える社会です。様々なことに対して常に問題意識をもっていないと、議論はできない。みんな自分の意見をしっかりとって、かつ、話し合える社会が僕の考える理想の社会です。

### ■理想の教育とは？

神長：当たり前なのに「ありがとう」といえることが、学生に限らず、すべての人に重要だと考えます。僕は学生時代に飲食店でアルバイトをしていたが、接客や調理をすることが当たりまえだと思ってしまっていた。けど、それは当たり前ではないし、たとえば学校の先生が勉強を教えているのも当たり前ではなくて、その先生が教えなくてもいい。自分が当たりまえだと思っていることは誰かの努力でできているということ、それに対してお礼を声に出していくこと、感謝の気持ちを忘れないことが重要だと考えている。

それをこれからの教育で教えてほしいと思う。



中田：相手のことを考えや個性を尊重できる教育。

東條晴：他人の考え方を取り入れ、自分の考え方をひろげられるような、世界をひろげられるような教育をしてほしい

槇野：勉強の本質を教えてほしい。それぞれの科目のこういった部分が、将来、どんな場面で役に立つのかとか。

宮元：距離感が大事なと思う。通っている学校は生徒数が多くて、1クラスに40人以上いて、担任の先生もこれだけ多いと見切れない。

山崎：グループワーク等、対面的に人の意見を聴く教育があったらいいのではないか。

東條玲：理想の社会のためにこういった理想の教育があるのかという点がポイントだと思う。

本来は理想の教育があって、そして社会をつくっていくという構図があるべきだが、現状はそれが逆転している。理想の社会があって、それに向けて理想の教育を行う、いわば、社会のために教育が奴隷になっている。教育というよりも社会をかえないと教育が変わらないと日々感じている。

そのための教育としては二つあって、一つは自主性を育める教育。惰性で生きていくのではなく、生きている実感をもって生活すること。もう一つは、夢や希望、未来に生きる活力を与える教育。

この2つの教育が、やりたいことを受けて入れてくれる社会につながっていくと確信している。

## ■将来の夢は？

中田：安定した仕事につきたい。

東條晴：人の役に立つ仕事。

宮元：ブライダル関係。

槇野：人の幸せに携



わる仕事。

神長：人の笑顔をつくれる仕事

山崎：1日1日をおもしろいと思えるようになりたい

東條玲：生きているという実感をもって生きていきたい

谷川：トピックがこれだけ若者が集まる施設というのは、青少年の声を形にしようという大人がたくさんいて、職員や地域ボランティアの方々が、青少年のやりたいことを形にしてあげようと努力してきた部分も多くあると思います。

元々は人見知りだったり、人と話をするのが苦手だった子どももいましたが、青少年委員会に参加するうちに、彼ら自身が成長し、今では青少年委員会をはじめ、ボランティア活動にも積極的に参加するなど、富田林市にとって財産といえる若者たちが育っています。

今日のシンポジウムを聞いてくださった方々には、富田林にこんな施設があるということに心にとめておいて頂ければ嬉しいです。

では、長時間となりましたが、以上をもちまして終了とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

